

「ガリ版印刷」について調べるには

謄写版(ガリ版)を発明・製品化した堀井新治郎元紀(1856～1932)と、新治郎仁紀(1875～1932)父子です。終戦後、新しい印刷機械が登場するまで、謄写版はもっとも簡便な庶民の印刷機として日本全国の文化普及に大きな役割を果たしてきました。(『まるごと東近江市百科』より)



図書館の資料で調べる

◆『蒲生町史 第2巻』 P701～P710

蒲生町史編纂委員会、1999年

堀井父子の経歴紹介や、ガリ版の発明、謄写堂事業の展開、ガリ版文化の普及と衰退など、歴史を追って説明しています。

◆『ガリ版文化史 一手づくりのメディア物語』

田村 紀雄・志村 章子／編著、新宿書房、1985年

謄写版の誕生から国内外へ普及する経緯、孔版家、謄写版技術により発行された作品などを紹介しています。当時を知る孔版家や堀井謄写堂関係者からの寄稿により編纂されています。巻末にガリ版印刷文化関係年表があります。

◆『ガリ版ものがたり』

志村 章子／著、大修館書店、2012年

ロウ原紙やヤスリなど謄写器材の発展史や、田中正造や宮沢賢治など、謄写版により影響を受けた人々の話を紹介しています。教育、社会運動から芸術の分野など、幅広く活躍したガリ版と、それにまつわる人々の物語です。長年、ガリ版について研究する著者は、他にも著書が多数あります。

◆『ガリ版印刷の祖 堀井父子の情熱 (第62回企画展 鈴鹿から琵琶湖まで 東近江市の個性いろいろ シリーズ1 蒲生地区) 』

東近江市能登川博物館、2006年

堀井新治郎父子のふるさとである蒲生地区を紹介したパンフレットです。堀井父子やガリ版普及の経緯、堀井謄写堂などについてコンパクトに説明しています。ガリ版伝承館の説明もあります。

◆『謄写技術 講習会テキスト 1962 年刊復刻版』

ガリ版ネットワーク、2003年

謄写版が大いに普及した昭和 30 年代、全国各地で孔版技術の実演や講習会が開催されました。本書は当時の講習会テキストを復刻したものです。

◆『謄写版の冒険 一卓上印刷器からはじまったアート』

和歌山県立近代美術館、2013年

高度経済成長期を向かえ、印刷は複写機に取って代わった現在、謄写版は芸術や趣味として、その価値が見直されました。本書は 2013 年に和歌山県立近代美術館で開催された謄写版美術印刷作品の展覧会のパンフレットです。

◆『そこら 第1号』

そこら編集委員会／編、2014年

レトロかわいいガリ版印刷の良さを、実際に行ったガリ版体験を通して紹介するリトルプレスです。ガリ版機材を不要な人から収集し、必要な人に手渡すなどの活動を行う「新ガリ版ネットワーク」についても記載しています。

子ども向けの資料

◆『わたしたちの蒲生町』 P108

蒲生町教育委員会、2000年

小学3・4年生および6年生向け社会科副読本です。蒲生町がほこる先人の活躍として、堀井親子について子ども向けに説明しています。

ウェブサイト参考

◆ガリ版伝承館(東近江市ホーランド内)

<http://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000000117.html>